名品傑作ヲ集メ美術史ヲ編纂シテ美術上ニ貢献スルノミナラズ文學上ノ欠典ヲ補ヒ生徒成績品陳列室ヲ新設シテ本校ノ成績ヲ博ク内外人ニ示ス等ノ必要ナルコトハ前年提出シタル年報中ニモ記シタル如クニシテ各項孰レモ速ニ之ガ施設ヲ要ス

校舎ノ狹隘ト不適當ナルコトハ設備ノ項ニ於テ述ブル所ノ如ク之ガ施設ヲ要スルハ本校目下ノ急務ナリ

講議室増築ノ必要ナル是亦設備ノ項ニ於テ述ブル所ノ如シ

本校ニハ雨天体操場ノ設ケナシ　速ニ新設スルヲ要ス

教授助教授ノ不足ハ教課上缺典トスル所ナリ　然レドモ現今ノ經費ニテハ到底充實セシムルヲ得ザルヲ以テ之ガ費額ヲ増ス必要アリ

圖書標本ハ他學校ニ比シテ高價ノモノ多ク且ツ擴ク蒐集スルノ要アリ　毎年少許ヲ購入スト雖モ未ダ不足ヲ免レズ漸次増備ノ必要アルヲ以テ其費用ヲ増加セラレンコトヲ切望スル所ナリ

學生費ハ現今ノ額ニテハ不足ヲ告ゲ生徒ヲシテ充分ノ修學旅行ヲナサシムル能ハズ　従テ見聞ヲ廣メ良績ヲ擧グルニ難シ　且本校規則研究科規程中ニ旅行ヲナサシムルノ規程アルモ従來費用ノ足ラザルガタメ空文ニ属シ遺憾トスル所ナリ　故ニ本費用ヲ増額スル亦必要ナリ

雑件

前々年度以来研究生ノ實験ニ資スルタメ依託ヲ受ケタル滋賀縣下社寺ノ寶物修繕事業ハ本年度ニ至リテ悉皆竣成セリ

生徒實験ノ資ニ供スルタメ諸向ノ依嘱ヲ受ケ製作ニ従事シタルモノ、中重ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ

一	仙台昭忠像	壹基	前年度ヨリ継續竣工	仙台昭忠會依嘱
一	故佐久間貞一胸像	壹軀	同　上	日本圖書株式會社依嘱
一	鍛金釣燈籠	壹對	本年度受託未竣工	近衛師團司令部依嘱
一	鑄銅ライオン商標	壹個	同竣工	小林富次郎依嘱
一	第五回博覧會塑造観音噴水	壹基	同同	農商務省依嘱
一	同堺水族館塑造龍神噴水	壹基	同同	同
一	同　上鑄鉄小児噴水	壹基	同同	同
一	鴨場模型	壹個	同同	同
一	浅草公園噴水鑄銅龍神化身神像	壹基	同同	東京市役所依嘱

解　説

1　教授、助教授、書記の定員

135頁に記したとおり、三月二十七日教授の定員は十八人から二十三人へ、助教授の定員は二十三人から二十四人へと改正されたが実際の員数は教授十九人、助教授は十五人であった。書記の定員は従来どおり五人で、実際の員数は三人であった。なお、左記の表は人員の面での本校の規模を諸学校と比較するための参考として掲げるものである。

勅令第九十九号による文部省直轄諸学校職員定員

	教授	教諭	舎監	助教授	助教諭	訓導	書記
東京高等師範学校	五〇	一〇	三	九	一一	一九	一二
広島〃	八	—	一	二	—	—	五
女子〃	二六	七	二	八	一三	一八	八
札幌農学校	一四	—	—	一八	—	—	八
盛岡高等農林学校	三	—	—	三	—	—	四
東京高等商業学校	三〇	—	—	一四	—	—	一一
神戸〃	三	—	—	二	—	—	三
第一高等学校	三七	—	—	九	—	—	八
第二〃	二四	—	—	五	—	—	六
第三〃	二四	—	—	七	—	—	七
第四〃	二四	—	—	一〇	—	—	六
第五〃	三三	—	—	一二	—	—	八
第六〃	二二	—	—	五	—	—	六
第七高等学校造士館	一三	—	—	五	—	—	五
山口高等学校	二〇	—	—	三	—	—	六
千葉医学専門学校	一三	—	—	七	—	—	五
仙台〃〃	一二	—	—	六	—	—	五
岡山〃〃	一二	—	—	七	—	—	五
金沢〃〃	一二	—	—	五	—	—	五
長崎〃〃	一三	—	—	七	—	—	五
東京高等工業学校	二四	—	—	三九	—	—	八
大阪〃	一五	—	—	二五	—	—	六
京都高等工芸学校	六	—	—	六	—	—	五
東京外国語学校	一九	—	—	一一	—	—	五
東京美術学校	二三	—	—	二四	—	—	五
東京音楽学校	九	—	—	一一	—	—	四
東京盲唖学校	—	二	—	—	—	一二	四

（明治三十五年三月九日『時事新報』による）

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

東京美術學校記事〔一巻—一号。M・三五年・六月・二十一日〕

○學科に關する事項　重なるもの左の如し

日本畫科　從來寫生の爲に別に一教室を設けありしが〔三十四年九月開始〕今學年より各學年級の教室に於て寫生をなすことゝなれり

教員志望者の木炭畫練習　日本畫科圖案科の同志望者には〔三十五年〕本年より第四年級に於て木炭畫を練習せしめ居れり

彫刻科の解剖學　美術解剖講義の外彫刻科教室に於て生人及製作物に就き〔三十四年九月開始〕本學年より解剖學を講義す　久米教授の擔任なり〔三十五年二月～六月〕

窰器製作講義　圖案科課程物品製作大意の一部として本年二月より鹽田力藏〔日本美術院正員。同院編集部主任〕氏の擔任にて開始せられ望みの者には隨意に聽講せしめらる

伊語科　〔三十五年〕本年三月五日より科外に於て此科を新設し望みのものに學修せしめらる　擔任講師は東京外國語學校教授伊藤平藏氏及同校